



観葉植物の夏越し

Q. 観葉植物は暑さに強いものと思い、テーブルヤシを日向に出して葉をやいてしまいました。観葉植物の夏越しについてお尋ねします。

A. 夏には多くの観葉植物は元気に育ちますが、日に当てると弱い種類は葉やけをおこしますので日除けをしないとけません。強いものでも急に強い直射日光に当てれば葉が傷みますから、すこしずつ日光に慣らしてやります。

ポイント：梅雨明けから9月上旬までは明るく風通しのよい室内か、戸外の半日陰（家の北側など）に鉢を置きます。

1 夏越しの注意

1) 育ちぐあい

夜温が25℃を越える熱帯夜が続くと、暑さや蒸れに弱い植物（観葉型のベゴニアやピギー バッグ プランツなど）は生育を停止します。こんなときに暑いからといってどんどん水をやると、過湿と蒸れでいっぺんに枯れてしまいます。

鉢土を乾かしぎみにし、直射日光があたらない通風の良い場所に置き、霧吹きでの水分の補給や、夕方の葉水かけ、鉢の周囲の地面への散水などで、夜温を下げる工夫をします。

2) 水やり

高温と乾燥でよく乾くので、水切れに注意してください。水をやるときは鉢底から流れ出るまでたっぷりやり、受け皿に溜まった水は捨てます。朝涼しいうちにすませ、夕方は葉水程度にするのが標準です。カラカラに乾いてしおれる寸前のようなものには通常の水やりをします。

3) 日除け

日陰の場所が得られないときは、遮光ネットやよしずで日除けをつくり、その下に置きます。

4) 冷房の風

自然の通風は大切ですが、クーラーの冷風や室外機の熱風にはとても弱いので、当ててはいけません。終日、冷気にあてるときは、ときどき戸外の日陰に出して、あたまから葉水をかけてやります。

5) 肥料

生育旺盛なもの以外はとくに必要ありません。暑さで弱った植物に肥料をやるのは逆効果ですからやってはいけません。